

下妻市統計図表展について

48年4月統計の席をあたためて間もなく、茨城統計情報事務所出張所より、地域統計活動モデル地区として事業を行なうので、是非協力をとの話があり、当時、「統計ほど出鱈目なものはない」と、時折り耳にしていたので、これには係として大いに反発を感じていた矢先でもあり、子供達の教育には勿論、親達(大人)の関心を高めるには最も良い方法であり、統計の重要性と有りのままの申告ができるよう、思想の向上に努力すべきことが当面の課題であると思われ、心よくお引き受けし努力することにした。

49年第1回農林統計図表展として、下妻市、関東農政局茨城統計情報事務所出張所主催にて行なうはこびになった。幸い、予算も協力体制も関係機関の理解によりスムーズに整い、実行委員会を結成、委員長に市長を、副委員長に出張所長、教育長を、委員には、校長会長、教育研究会長、学校統計教育正、副部長、農協組合長、出張所次長、統計情報官、教委事務局長、商工課長、統計係長等を以って組織した。

尚、全国農林統計協会連合会、農林統計協会、県統計協会、県生鮮食料品流通情報協会、農林統計協会下妻支部、県農業共済組合連合会県西出張所、市教育委員会、市農業委員会、市農業協同組合、市農業共済組合、市統計事務協議会等の協賛を得た。

実施要領には、目的に「農林統計思想の普及、向上と統計についての理解と関心を高め、農業経営の安定を図るに必要な統計、統計の表現、技術の研さん、統計教育等を推進するため市内の児童、生徒から農林統計図表を募集し展示する」と、当時農林統計のみとした。

主催は、下妻市、関東農政局茨城統計情報事務所出張所、茨城農林統計協会。

応募資格は、第1部…市内小学校4年生以上の児童。

第2部…市内中学校生徒。

規格は、国・県図表コンクールの応募規格に合せ、県コンクールに優秀作品を出品できるようにした。

出品点数 各学校1学級3点とし、計184点に規制した。

審査 審査員は、市役所2名、統計事務所2名、学校4名、学識経験者1名の合計9名を委嘱。資料の適切さ、表現技術を基準に、小・中学校各金賞18点、銀賞20点、銅賞40点を選出。

展示会 下妻市産業文化祭の11月23日～25日、全出品点数184点を展示した。

表彰 最優秀作品を金賞とし、関東農政局長、同部長を初め関係機関協賛団体長より表彰を受けた。

表彰式 文化祭の最終日午後、市役所大会議室に於いて県統計課長、茨城農林協会長、全国農林統計協会会長等多数の来賓臨席の上表彰をうけ、受賞児童、生徒達は感激し、「来年もよりよい作品を」と、決意の謝辞をのべていた。特に初回には、出張所長のはからいにて赤飯まで用意し、お祝いをしたので、児童、生徒達は大喜びであった。

第3回までは、主として農林水産統計図表であることと規定したため、小学校高学年(4年生以上)を第1部とし、第2部を中学生としたが、第4回目からは、出張所のモデル地区としての3ヶ年が完了したので、小学校低学年も含めて、3部に分け、課題も県コンクールと同じく自由にした。出品点数も多くなり、1学級3点としたが、それでも総出品数が400点にも及び、審査は8時半から5時、6時までにもなり一苦勞であった。だが作成する児童、生徒は、それ以上に苦勞をしている。学校では教科にない教育をし、子供達は、夏休みの宿題として統計図表を作らなければならない。部、クラブ活動の合間に資料集めである。市役所に来たものも百人以上にもなる。今迄は、資料集めも勉強の一つとして統計書の見方から図表のタイトル、構成などはとっては、統計書を与えていたにすぎなかったが、今は時間との戦いでもあり、よりよい知識を、より多く求める中では、図表を作り易いよう、市の統計のまとめを作らなければならない。

中には、親達が資料作りに統計書から書き取っている姿も見うけられた。又、低学年の作品の中にも、大人の手のはいったものと思われるものもあったが、審査には全面的なものは除外するが、ある程度は目をつむることにした。というのも統計思想の普及、向上面から大人に大いに関心をもってもらいたい、理解を深めてもらいたいという統計係としての大きな望みがあったからである。お陰で統計調査にも問題が少なくなり、積極的に協力を望んできておられ、図表展による成果は十二分に果されていると自負している。作品も、当初は幼稚が多かったが、最近はどうも金賞にしてもはずかしくない程度にレベルアップしてきている。

国・県コンクールにも二席とか佳作と、数回入賞もしている。だが、1点の優秀作品よりは、全員の参加する図表

展に大きな意義があると思う。しかし、会場の都合で全作品が展示出来ないのが残念でならない。提出作品以外は、各学校にて展示をしている。このように市内ほとんどの児童、生徒が参加(2000点に及ぶ)していることは、下妻市の大きな自慢である。だが欲を言えば図表の構図、グラフ、文字、配色等非常にうまく、大人顔まけの作品揃いになっては来ているが、観るものに対し、美観とタイトル、内容に対する興味を与えるものがほしい。グラフにより強力に伝達されてこそ、その目的が果されるものであろう。

今回、第8回目を迎え、10月23日に作品審査も終了し、各賞が決定している。金賞36点。金賞は席次をつけず表彰者にふさわしい優秀作品を表彰するようにしている。残りを銀賞とし、実行委員長賞を与えている。ちなみに今回の賞をかかげてみる。

- 下妻市長賞 「どこへ行く、市財政」 中学3年
- 「図書室利用状況」 小学6年
- 関東農政局茨城統計情報事務所長賞
- 「下妻農業の姿」 中学3年
- 「下妻の豚はこう変わった」 小学6年
- 議長賞 「国際障害者年にちなんで」 中学2年

- 「としよかんでよむ小学生の本」 小学2年 教育長賞
- 「中学生のくらし」 中学1年
- 「市の図書館はどのように利用されているか」 小学4年

その他、下妻出張所長賞2点、全国農林統計連合会長賞2点、(財)農林統計協会会長賞2点、県統計協会会長賞2点、農委会長賞2点、県生食流通協会会長賞2点、真結支部長賞2点、農協組合長賞3点、商工会長賞3点、茨農共連県西所長賞2点、農共組合長賞2点、市統計協会会長賞2点、計36点。

尚、参加製作者は第1部570人、第2部667人、第3部854人、計2091点、審査作品313点(各学級3点以内と限定)、展示用作品162点(会場の都合で限定選出)。

予算関係は市委託料10万円、出張所委託料3万円、協賛費11万円、計24万円で運営をしている。

支出は賞状、副賞、参加賞、写真アルバム代等が主である。

今年も文化祭の人気会場となることであろうが、市内小・中学校先生方の指導、関係各機関のご協賛、ご協力の賜と感謝している次第です。

(下妻市経済部商工課課長補佐兼統計係長 飯村明男)

